

## 広島県におけるスゲ属植物（カヤツリグサ科）の分布\*

一橋賢三<sup>1)</sup>・世羅徹哉<sup>2)</sup>

### Distribution of the Carices (Cyperaceae) in Hiroshima Prefecture\*

Kenso Hitotsubashi<sup>1)</sup> and Tetsuya Sera<sup>2)</sup>

#### Summary

1. Distribution maps about 104 taxa of the Carices growing in Hiroshima Prefecture were made.
2. *Carex koyaensis* var. *koyaensis*, *C. pansa*, *C. omiana* var. *monticola*, *C. mitrata* var. *mitrata*, *C. sabynensis* var. *rostrata*, *C. ischnostachya* var. *fastigiata* were found to grow wild in Hiroshima Prefecture for the first time.
3. *C. lanceolata*, *C. leuchochlora*, *C. conica* var. *conica*, *C. lenta*, *C. maximowiczii* var. *maximowiczii* were confirmed to distribute widely in the Prefecture.

#### はじめに

スゲ属植物 (*Carex* L.) は約 2,000 種からなるカヤツリグサ科最大の属で、世界に広く分布している (大井 1982)。日本には種内分類群を含め 290 から 300 種が自生するとされている (勝山 2005, 星野ほか 2011)。

広島県のスゲについては、戦前に高木哲雄が 88 種を (広島市植物公園 (編) 2005)、戦後は岡本香が中国地方のスゲを精力的に調査し、78 種を記録した (Okamoto 1965)。1997 年に刊行された広島県植物誌および同補遺 (世羅ほか 2010) では県内自生種として 97 種を掲載している。しかしその後もミタケスゲ (*C. dolichocarpa*) のような広島県新産記録 (一橋ほか 2012) や、ノスゲ (*C. tashiroana*) の新分布 (一橋 2012) などの新たな知見が報告され、スゲ属植物に対する関心が高まっているが、同時に県内のスゲ属植物に関しては未解明なことが多いといえる。

種の生物学実態を解明する上でその分布を明らかにすることは大変重要である。堀川 (1972) が示しているように、ある地域における分布の様子を

メッシュ単位であらわす方法は分布の連続、不連続を視覚的に捕らえやすいため、その種の分布傾向や未調査域の把握に都合が良い。竹田 (1987) は、同様の手法によって広島県内におけるシダ植物の分布を表している。その後、松村雅文は精力的にシダの調査を行い、広島県におけるシダ植物の分布の全容をほぼ解明したと思われる (松村 2010)。広島県内のスゲ属植物の分布については Okamoto (1965) が 78 種の県内分布図を作成し、県内の分布を 8 パターンに類型化している。この分布図には計 5,000 点の標本を使用しているが、産地を二次メッシュ単位 (1 メッシュが国土地理院の 1/25000 地形図にあたる) で表しているため詳しい分布状況を読み取ることが困難である。また、Okamoto 自身が述べているように、新たな産地等が発見されたために類型化に合わなくなった種もある。一方、近年は GPS ロガーの普及により採集地を緯度・経度で直接地図上に表すことが容易になり、詳細な分布図を作成することが可能になった。そこで著者らは、広島県内のスゲ属植物の分布を明らかにする目的で、証拠標本に基づいた 104 種について 1 種ごとの県内分布図を作成した。

\* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.101

1) 広島市植物公園ガイドボランティア 731-5156 広島市佐伯区倉重 3 丁目 495

2) 広島市植物公園 731-5156 広島市佐伯区倉重 3 丁目 495